

# 水戸市所在都市県庁

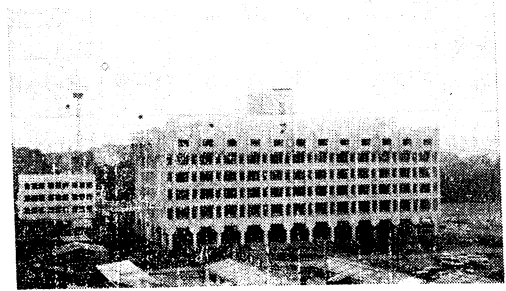
水戸市総合企画室企画課統計調査係

## 沿革

水戸は今から770年前、馬場氏によって開かれ、その後江戸氏、佐竹氏を経て、慶長14年に徳川家康の第11子である頼房の入府以来天下の副将軍の城下町として栄えた。

明治維新後水戸県が置かれ、ついで茨城県と改められた。当時は東茨城郡に属していたが、明治22年4月1日、旧上市と下市のほかに、常磐、細谷、吉田、浜田4カ村の各一部を合併して水戸市が誕生した。

昭和8年常磐村を合併して、一大躍進を見ようとしたが、たまたま昭和20年8月2日の戦災で市街地の8割以上が烏有に帰した。これがため、人口は5万人台を割るにいたったが、昭和24年にはまず吉田村の一部を、昭和27年には緑岡村の全域と上大野村の一部、また、昭和30年には、上大野村、吉田村、柳河村、渡里村の各全区域と酒門村の大部分および河和田村の一部を合併、さらに昭和32年には飯富、国田の両村、昭和33年には、さきに3カ村が合併して成立した赤塚村の全域を合併して今



(水戸市新庁舎)

に至っている。

## 人口

昭和45年国勢調査によると、本市の人口は173,789人世帯数49,488世帯、面積145.96km<sup>2</sup>で、人口密度は1Km<sup>2</sup>当たり1,191人となっている。これを前回の国勢調査と比較すると、この5年間に、人口は18,806人(増加率1.1%)、世帯は9,366世帯(増加率23.3%)とそれぞれ増加した。人口の増加率は県内都市のうち第4位である。✓

第1表 人口の推移 (単位: Km<sup>2</sup>世帯, 人)

年次	面積	世帯数	人口			人口密度 1Km <sup>2</sup> 当たり	1世帯当たり 人員数
			総数	男	女		
昭和30年(国調)	86.93	23,850	100,435	53,056	57,379	1,270	4.6
35 (〃)	145.99	32,710	139,389	67,113	72,276	955	4.3
40 (〃)	145.96	40,122	154,983	74,812	80,171	1,062	3.9
45 (〃)	〃	49,488	173,789	83,868	89,921	1,191	3.5
46. 10. 1	〃	51,141	178,661	86,377	92,284	1,224	3.5
47. 6. 1	〃	52,406	181,503	87,778	93,725	1,243	3.5

第2表 人口動態

年次	自然動態			社会動態			人口増加 (A)-(B)
	出生	死亡	自然増加 (A)	転入	転出	社会増加 (B)	
昭和44年	3,061	913	2,148	13,343	11,214	2,129	4,277
45	3,425	977	2,448	13,040	11,006	2,034	4,482
46	3,760	1,097	2,662	14,232	11,844	2,388	5,051

## 産業

✓本市の産業構造は、第1次産業13.2%、第2次産業21.7%、第3次産業65.1%と第3次産業の割合が極めて高

く、特に卸・小売業、サービス業がそれぞれ26.4%、21.1%を占めている。

商業については昭和45年商業調査の結果によれば、商店数は4,269店、(卸・小売業3,182、飲食店1,087店)✓

# 統計ニュース

## ◇ 9月の主な行事 ◇

- 4～5日 関東甲信静ブロック県(都)単独統計調査研究会
- 11日 県統計グラフコンクール応募作品締切り日
- 11～12日 北関東四県統計課長会議
- 12日 商工動態統計調査調査員研修会
- 13日 関東甲信静ブロック統計刊行物研究会
- 14～19日 県統計グラフコンクール審査会
- 20～21日 都道府県行政資料室連絡協議会
- 26日 商工統計解析研究会

従業員数は25,189人、年間商品販売額は2,052億円で、従業員1人あたりは1,570万円となっている。

農業については、本市の農家数は5,858戸、経営規模は平均0.88haで、米、そ菜、畜産の複合経営が多くみられるが、近年の米を取りまく農業情勢の変化の中で、そ菜栽培への転換が図られつつある。

### 福祉

養老施設としては、市立養護老人ホーム2(収容定員140人)の外、県立1、私立1の4カ所がある。

児童福祉施設としては、市立保育所6(収容定員447人)の外、県立1、私立3の10カ所がある。

生活保護については、保護世帯は762世帯、1,591人で、保護率は1,000人につき9.1人である。

### 教育

水戸は文教の府といわれ、市内には、小学校21校(市立20、国立1)、中学校13校(市立11、国立1、私立1)幼稚園23園(市立9、国立1、私立13)、高校13校(県立7、私立6)と茨城大学、常磐学園短大、水戸短大がある。

社会教育施設は、市立社会センターのほか、公民館4、図書館1がある。

体育施設は市民プール、青柳公園野球場、千波公園テニスコート、柳河市民運動場がある。市民プールは水府町にあり、プール6面の外、屋内水泳場(県委託)を有する。

### 財政

昭和47年度一般会計予算は7,900,962千円で、前年度当初予算に対して1,229,221千円の増加(増加率18.4%)となり、特別会計を含む予算規模は11,379,977千円で、前年度に対して25,74,314千円(増加率29.2%)となった。

なお、この外に企業会計として水道事業会計がある。

### 観光

〔偕楽園〕 日本三公園の一つ。面積11ha。天保12年烈公が創設し。

好文亭、常磐神社、東湖神社、義烈館、回天館、吐玉泉が見どころである。

〔千波湖〕 四季を通じて偕楽園と共に市民の憩いの場となっている。湖畔には、レイクランド、野外音楽堂、散歩道、テニスコートなどがある。

〔弘道館公園〕 天保12年烈公が創建。

本館、孔子廊、八卦堂、要石、学生警鐘が見どころである。庭前の白梅がすばらしい。

〔その他〕 桜山と護国神社、白旗山八幡宮、愛宕山古墳と愛宕神社、保和苑と常磐共有墓地、薬王院、祇園寺、信願寺、神崎寺、笠原水道、さらし井などが有名である。

### 将来の計画

昭和44年9月に水戸市総合計画が策定された。計画では昭和44年度を初年度とし、昭和55年度を目標年次とし、目標年次における人口を266,000人と推定している。

計画の中で、市政の基本方向は、真の「市民の幸福」追求を基本理念として、都市基盤の整備、社会福祉および生活環境の充実、教育文化水準の向上、産業の振興を柱として、近代的な都市機能の整備、充実と各施策の振興を図り、もって「豊かで風格ある観光・商業都市」の実現を図ることとしている。

### 昭和46年版 茨城県勢要覧

増刷頒布中

当要覧は限定発行のため、5月発刊と同時に余部がなくなり、みなさまに大変ご迷惑をおかけしましたが、このたび増刷分ができましたのでどうぞ下記までお申込みください。

申込み先 茨城県統計協会

水戸市三ノ丸1-5-38 茨城県統計課内  
TEL 0292 (2) 8111 内線 420

定価 1部 450円